

講 評

2017 年度学会賞 単行本の部 授賞作品

『プラットフォーム企業のグローバル戦略

—オープン標準の戦略的活用とビジネス・エコシステム—』(有斐閣、2017.3)

立本博文(筑波大学大学院) 著

学会賞委員長

安室憲一(兵庫県立大学名誉教授)

本書はプラットフォーム企業の国際的な影響力に着目し、先進国企業と新興国企業との間に形成される国際分業の在り方(ビジネス・エコシステム)を解明する。プラットフォーム企業は、従来の製造業を中心とした戦略論とは異なり、ネットワーク理論やオープン標準を活用した独自の世界を築いていく。その方法の解明が本書の特徴である。

本書は9つの章から成り立っている。第1章ではオープン標準化とプラットフォーム企業との関係が明らかにされ、本書を貫く問題提起が行われる。第2章では理論的なモデルと命題が明らかにされ、以降の第3章から7章までの事例および実証研究により(3章は携帯電話、4章は半導体製造装置、5・6章はパソコン、7章は車載エレクトロニクス)、命題を検証している。各事例研究では、活動的なエコシステムを形成するさいに、プラットフォーム企業がどのように戦略的に働きかけていったかが丁寧に分析されている。第8章はプラットフォーム企業の戦略の全体図が示され、第9章で本書を総括している。本書は、ICT時代の国際ビジネス戦略を解明した画期的な労作として高く評価される。

今後の課題を何点か指摘しておこう。第1は、著者が指摘する「2面戦略」や「バンドリング戦略」も、基本的には「オープン戦略」というよりも「囲い込み」による「内部化戦略」と考えられる。オープンの論理がクローズドの論理に変わる「断続的飛躍」の論理を一般的な理論として解説してほしい。第2は、今後の課題である。IoTや「第4次産業革命」とプラットフォーム企業の戦略について、研究してほしい。また、なぜ日本のICT企業がプラットフォーム戦略で成功できないのかも解明してほしい。

以上のように、本書は、「オープン標準」、「ビジネス・エコシステム」といった新しい概念を駆使してプラットフォーム企業の研究を切り開き、国際ビジネス研究の新天地を築いたことを評価し、ここに学会賞を授与する。